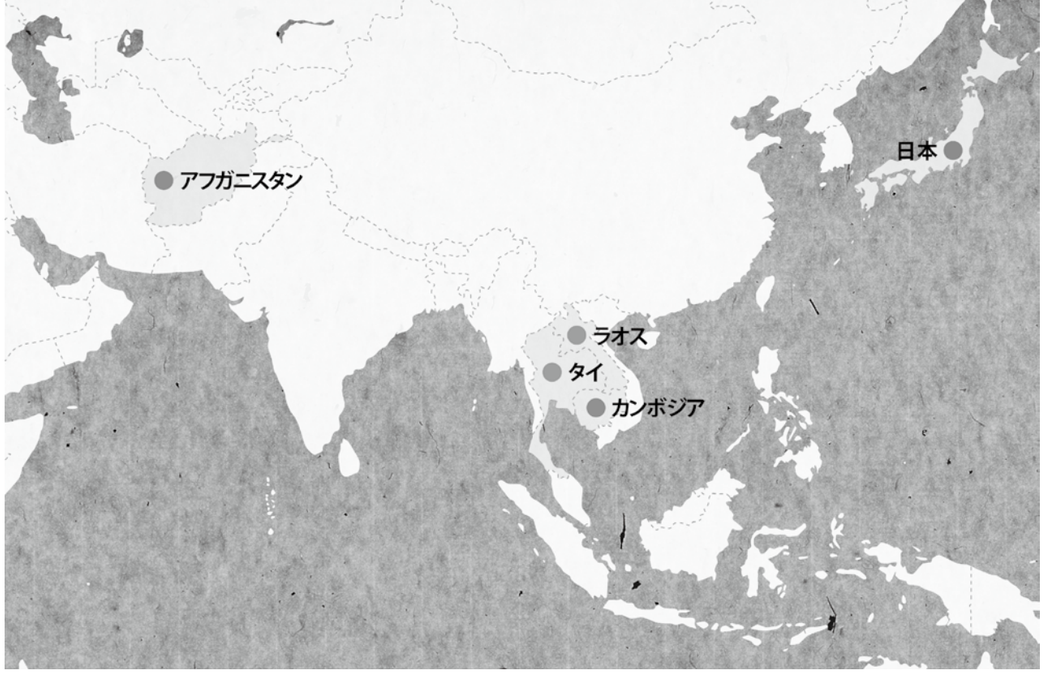
シャンティ　2010 年 7 月 1 日発行　増刊　通巻 257 号
1985 年 6 月 28 日第三種郵便物認可 ISSN 1343–4748

2009-2010

2009 年度年次報告
2010 年度活動計画

社団法人 シャンティ国際ボランティア会



SVA宣言

私たちの願い

ＳＶＡは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合い、その人々と共に解決のための活動を行います。

そして「共に生き、共に学ぶ」ことができる平和（シャンティ）な社会の実現を目指します。

平和な社会とは、すべての民族と人間の尊厳が保たれ、国家や民族、宗教、言語、文化の違いを美しき多様性ととらえ、違いを称え合い、争いは対話をもって解決される社会のことです。

ＳＶＡは、特にアジアにおける教育・文化活動を通じてこのような社会の実現をはかります。それは、伝統文化と価値観に根ざした地域共同体を大切にし、考える力や想像力を培い、社会や生活の様々な問題を解決する力を養うことを意味します。

SVAの歩み

活動年表

1980 年	ＳＶＡの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議（ＪＳＲＣ）設立、カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所（バンコク）開設。
1981 年	ＪＳＲＣのボランティアが曹洞宗ボランティア会（ＳＶＡ）を結成。
1983 年	カンボジア難民への「慈愛の衣類を贈る運動」、日本各地で展開。
1984 年	初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。
1985 年	タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。タイ・チェンカーン、バンコク・スアンプルースラムで図書館活動開始。「クラフト・エイド」始まる。
1989 年	タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。
1991 年	カンボジア事務所（プノンペン）開設。タイにＳＶＡの現地法人シーカー・アジア財団を設立。
1992 年	ラオス事務所（ヴィエンチャン）開設。「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。
1995 年	阪神淡路大震災支援。
1999 年	「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。「絵本を届ける運動」開始。
2000 年	ミャンマー（ビルマ）難民支援開始。有馬実成元専務理事逝去。
2002 年	佐々木主浩投手（当時）、ＳＶＡ国際ボランティア親善大使就任。
2003 年	アフガニスタン事務所（ジャララバード）開設。有馬実成著「地球寂静」出版。
2005 年	愛・地球博「地球市民村」へ参加。
2009 年	スマトラ島沖地震救援開始。

2009-2010

2009年度年次報告 2010年度活動計画

Index

2 ＳＶＡ宣言・ＳＶＡの歩み
3 共に生き、共に学ぶ
4 2009年度を振り返って
5 2010年度に向けて
6 タイ
8 カンボジア
10 ラオス
12 ミャンマー（ビルマ）難民
14 アフガニスタン
16 緊急救援
18 日本
20 会計報告
22 組織・ネットワーク一覧

2009年次報告・2010活動計画
2010年7月1日発行

発行人：若林恭英
（社）シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31
慈母会館2・3F
TEL 03-5360-1233　FAX 03-5360-1220
http://www.sva.or.jp　info@sva.or.jp

表紙写真：渋谷敦志
ＡＤ：矢萩多聞
印刷：シナノ印刷

定価：550円

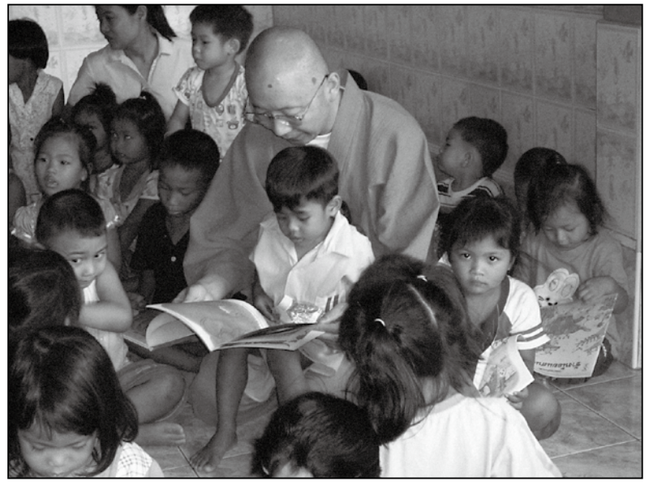
共に生き、共に学ぶ

社団法人シャンティ国際ボランティア会（ＳＶＡ）会長　若林恭英

日頃御支援くださっている皆さまに感謝の気持ちを添えて年次報告をお届けできますことは、国内・外の職員一同等しく喜びとするところです。

2008年12月に公益法人制度改革の法律が施行されました。当会も公益社団法人への移行にともなう新たな対応が求められ、定款変更を含めた諸規定の見直し作業を継続し、2010年中には新法人格取得を目指しています。ただどんな形であれ「共に学び、共に生きる」活動原点を明確にして皆さまと共に歩んで行きたいと思います。

さて、先日バンコクのスアンプルースラムを訪問しました。ここは2004年に大火災に見舞われ、多くの人々が焼け出されたスラムです。その直後からＳＶＡが救援活動を展開したことをご記憶の方も居られると思います。新しくなった図書館を訪れ見学した後、図書館員のノンヤオさんが新聞の切り抜きを出して見せてくれました。タイ語の記事に大きな写真、そこに写っていたのは国連本部会議場を背に立つ青年の姿でした。話しによると彼の名はシーカトゥン君。シラパコーン大学工学部2年生です。焼失前のスアンプルー図書館向かいの家で暮らし、幼少の頃より図書館の常連。中学高校と奨学金を受けながら勉強し、同時に図書館の手伝いもよくこなし、次第に地域内の青少年活動でもリーダーシップを発揮しました。こうしたことが区に認められ、区代表としてタイ全国の青少年グループコンテストに出場しました。そこでさらに次世代のリーダーとなる青少年の国代表として、「国連による子ども会議」に出席したのです。先の記事は、それを大きく報道したものでした。その後、復興成った住宅地を歩いていると偶然その彼に出会いました。礼儀正しい好青年の姿に「艱難（かんなん）、人を玉にす」という言葉を思い出しました。彼もまたスアンプルーの星の一人なのでしょう。ＳＶＡの活動で実った青い果実を見る思いでした。



バンコク郊外の保育園で、子どもと絵本で楽しむ筆者（中央）

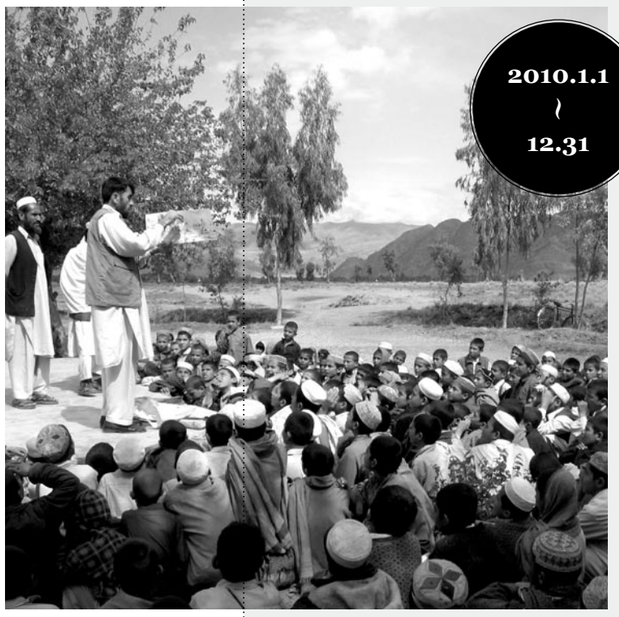
2009 年度を振り返って

2009.1.1 〜 12.31

2007 年に端を発した世界的な金融危機は、2009 年になっても多くの人びとの暮らしに影を落としました。SVA の活動地である国々においても、困難な立場にある人びとがさらに苦難の状況におかれ、職を求めて故郷や国に別れを告げる人、子どもたちの学びの機会を断念せざるを得ない人たちの姿が多く見受けられた年でもありました。

日本では、8 月の衆議院選の結果、政権交代が果たされました。私たちの社会においても、生活苦に陥った人びとが公的なセーフティーネットに依存していくことが困難となりつつあり、現政権は「新しい公共」を政策の理念として掲げました。それは非営利組織、市民セクターの活動に追い風となる一方で、NPO/NGO にとってはその社会的役割を問いなおしていくこと、真の市民社会の実現に向けての取り組みを主体的に創造していくことが求められている時期にきているといえます。

写真：瀬戸正夫



2009年の主な出来事

- **1月** 「1.17 灯りのつどい」に参加。
- **2月** 「絵本を届ける運動」の絵本輸送。「刺繍でつづるモン族の物語」開催。
- **3月** ＳＶＡ通常総会を開催。役員が改選。
- **4月** 「クラフト･エイド 2009 カタログ」披露･販売会を開催。
- **5月** 民話絵本お披露目会を開催。理事・監事研修会を開催。
- **6月** 「代議員研修会」を東京で開催。
- **8月** バンコクで 6 事務所のスタッフが集合した調整員会議を開催。カンボジアへのスタディツアーを実施。
- **9月** 全事務所の所長も出席し、東京で「2009 年度予算会議」開催。
- **10月** スマトラ島沖地震を受けて緊急救援開始。鎌倉の建長寺で「チャリティ寄席と仏像ガールチャリティトーク」を開催。
- **11月** 通常理事会開催。
- **12月** ＳＶＡ通常代議員会と「ＳＶＡの日」記念行事を開催。

人づくり、組織づくりを前進

各海外事務所とも自立運営に向けて大きく一歩を踏み出した一年となりました。すでに現地法人化を果たしているタイでは、2015 年の自立化を見据えて現地職員とともに計画策定を進め、組織強化に向けた取り組みを開始しました。8 月の総選挙を境に治安悪化が進み、日本人職員が駐在できずにいるアフガニスタンに関しても、危機管理研修や各事業レベルの調整員研修、また経理担当を日本に招へいして研修を実施し、職員一人ひとりの成長が著しくうかがえた年となりました。

組織と財政の安定化･強化

昨年に引き続き、運営上の最重要課題として掲げてきた構造的な財政問題の克服に向けて改善を進め、事務所／事業レベルの予算立案から執行に至るまで、収益・費用のバランスを意識した管理体制を確立させました。組織面では、新任の理事を迎えた理事会と事務局との間で役割と責任を確認しあい、情報共有と意思疎通に努めて連携体制を促進させました。

地域発の運動づくりに向けて

6 月に代議員とともに研修会を企画開催し、「共感を得る運動体づくり」を目指して、一人ひとりが主体的に行動をおこしていくことを確認しあいました。また、代議員が中心となった集い、イベントなどが複数の地域にて催されたほか、チャリティ寄席も延べ 50 回を超えて全国各地で開催されました。

被災者支援への取り組み

2008 年 5 月に開始したミャンマー（ビルマ）サイクロン救援事業を継続し、越境避難者の生活支援、幼児保育施設の再建、孤児院の建設、図書館員育成研修の開催など、09 年 7 月まで期間を延長して取り組みました。また、10 月からはスマトラ島沖で発生した地震の被災者支援に着手、食糧配布、仮設住宅資材の提供、保育施設の再建、図書館兼コミュニティセンターの建設などを住民とともに進めています。

2010 年度に向けて

2010.1.1 〜 12.31

SVA は、自らの使命と理念のもと、子どもたちが差別を受けることなく学びの機会を得ることを目指して、2010 年度も海外において事業を展開して参ります。同時に、私たちの足元の問題にも目を向け、地域の会員、協力者とともに市民としての自覚を持ち行動しながら、支え合いの社会、地球市民社会の構築に向けて、運動体としての役割を担っていきたいと思います。

30周年に向かって

2011 年、SVA はカンボジア難民キャンプで始まった試みから数え、30 年の節目を迎えます。これまで支えを続けてきたアジアの人びと、そして行動をともにしてきた会員や多くのご支援者とともに、これまでの歩みを振り返り、新たなヴィジョンのもとでの取り組みをスタートさせていきたいと願います。そのため 2010 年は､会員､代議員､理事による「30 周年実行委員会」を発足させ、地域発の運動づくり / イベント、記念誌出版、記念式典 / シンポジウムなどの企画・準備を開始していきます。

新公益法人への移行

SVA はそれまでの任意団体の活動から「法人格を持って主体的運動体として行動する」ことを誓い、99 年に社団法人格を取得しました。その後、2008 年に施行された公益法人制度改革 3 法に基づき、改めて「公益社団法人」への移行が必要となりました。SVA は、2011 年上半期中の認定を目標として、手続きを開始します。新法人格への移行は、団体としての自立的統治を整える側面であり、SVA の運動体としてのあり方は、それに影響されることなく、さらなる発展を目指して活動を遂行していきます。

海外事務所の自立運営の促進と新たなヴィジョンの構築に向けて

将来、活動がその国の人びとの手で運営されていくことを目指し、事務所ごとに人材の育成と組織能力強化を続けていきます。また、自立化を遂げた事務所と SVA の望ましいパートナーシップ、関係性についての議論を開始し、その方針を示していきます。現在の事業の質向上を進めていく一方で、30 周年を機として新たに挑んでいく海外での事業や国内における運動についても検討し、将来の展望を築いていきます。

タイ Thailand

タイでは現地法人シーカー・アジア財団（SAF）を通して支援を行っています。
2009 年から始まった自立化に向けた 5 カ年の組織計画に基づき、マネジメント、言語、および広報における能力強化を行っています。
事業運営の面では、ミャンマー（ビルマ）国境地帯において図書館および奨学金事業を通じ、国内の教育状況の底上げを図るとともに、バンコクに新たに設置した研修・教育開発センターを中心にこれまでの経験・ノウハウの発信により個々の拠点を相互に結ぶネットワーク作りを推進しています。

国データ
公用語：タイ語
首都：バンコク
面積：514,000km^2
人口：6,339 万人
（2008 年、タイ中央銀行）
GDP：一人当たり 4,116US ドル
（2008 年、JETRO）
通貨：バーツ（B）
日本との時差：－ 2 時間

タイの概況
2008 年の空港閉鎖をきっかけに、国中が戦闘状態のようなイメージがつき、観光産業が大きな打撃を受けています。しかしタイの政変は、日本人を含む外国人が暮らす地区や行動範囲とは異なり、首相官邸付近、王宮前広場など地域が限定されているのが特徴と言えます。
空港を占拠して現政権を作るきっかけとした、反タクシン派の民主市民連合（PAD）は政党を作ることを決定しており、一方、タクシンおよび反政府派である反独裁民主戦線（UDD）も地方で集会を続けています。貧困層と、富裕・中間層の決定的な対立はこれまでになく、解決の糸口が見つからない状態が続いています。

✣ 図書館事業

2009 年度は、ターク県ミャンマー（ビルマ）国境地帯のカレン人の村と並行して、同県のミャンマー（ビルマ）移民労働者の子どもたちに対して移動図書館での活動を実施しました。実施 2 年目となるカレン人の村では配布の絵本および研修会での教材づくりのアイデアが日常的に活用されていることが見てとれました。一方、研修会の活動について、これまでの蓄積を生かし広く発信していくために教材開発・研修センターを開設しました。事業全体での受益者数は約 10 万人で、うちコミュニティ図書館 8 館の利用者が 9 万 4,316 人、移動図書館活動の参加者が 5,381 人、研修会の参加者が 219 人、間接受益児童が約 2,000 人です。

2010 年度は、ミャンマー（ビルマ）国境地帯での図書活動を継続し、さらなる効果の浸透を図ります。バンコク・スラム地区の図書館 2 館については、地域への運営移譲を進めてまいります。

絵本読み聞かせコンテストの優勝者
写真：瀬戸正夫

✣ 学生寮事業

北部・東北部の学生寮 2 館において 48 人の中高生の生活を支援しました。北部はパヤオ県モン族の子どもたち 44 人、東北部はラオスとの国境沿いにある農村の子どもたち 4 人を受入れました。地域の教育状況の向上に伴い寮の必要性の低下を受け、東北部にあるチェンカーン学生寮ついては現在の寮生が課程を修了する 2010 年 3 月をもって閉寮することとなりました。一方、北部モン族の学生寮に関しては、自立を目指した農業活動に力を入れ、新設した畑で順調に野菜が収穫されました。2010 年度は、北部モン族の寮において農業を促進させ自立運営を目指します。

寮生が畑を整備する様子

◎奨学生数（2009 年度）

地域名	中学生	高校生	大学生	計
バンコク・スラム地区	31	22	7	60
スアンプルー再開発地区	13	10	1	24
チュアパーン	14	11	3	28
クロントイ	4		3	7
ワチャラポン		1		1
パヤオ県・モン族の地区	67	39	13	119
ルーイ県・農村地区	24	32	5	61
ターク県・カレン族の地区	63	27		90
合計	185	120	25	330

◎寮生数（2009 年度）

	中学生	高校生	計
北部パヤオ県シャンティ寮	18	26	44
東北部ルーイ県チェンカーン寮	2	2	4
合計	20	28	48

クロントイ図書館のリクリエーションの様子
写真：瀬戸正夫

カレン族の村での移動図書館活動

✣ 奨学金事業

バンコク・スラム地区および少数民族の地域の学生 378 人に対して奨学金の支給をしました。奨学生は中学生 185 人、高校生 120 人、大学生 25 人、寮生 48 人。事業地における情報収集および行政との連携に重点をおき活動を実施してきました。また、現地職員の主体的な事業運営を目指し、関係者間の会議を経て新しい運営のシステムを構築しました。

2010 年度は、ミャンマー（ビルマ）国境地帯の教育状況の正確な把握のため、行政との連携を保ちながら住民および学校現場の教師との関係づくりを強化します。また、運営面では新しいシステムの円滑かつ効率的な運用に取り組みます。

奨学金授与式で民族楽器を披露する
モン族の中学生

✣ スアンプルースラム火災復興支援事業

大火災から 5 年たった 2009 年 5 月、ようやく被災した全地区に復興住宅が完成し、入居することができました。SAF の運営する復興住宅内の保育園には、76 人の園児を受入れました。また、保育士の能力強化のため、研修、外部団体への視察などを積極的に実施しました。2010 年は保育園の運営を区に移譲するため住民委員会と連携を深めながら行政への働きかけを重点的に実施します。また、園運営の質向上のため人材育成を行います。

地域のイベントに参加するスアンプルー
保育園児たち　写真：瀬戸正夫

カンボジア Cambodia

SVAが設立30周年を迎える2011年は、カンボジア事務所開設20周年にもあたります。原点の思想である「共に生き、共に学ぶ」をスタッフ一同で共有し、事業計画や日常の活動に実践していくことに事務所を挙げて取り組んで参ります。そしてまた、人の立場にたって理解（understand）ができるように努め、支援が必要な人たちとご支援者の仲立ちの役割を全うしていきます。

国データ

公用語：クメール語
首都：プノンペン
面積：181,000km²
人口：1,340万人
GDP：一人当たり774USドル
（2008年、IMF資料）
通貨：リエル（KHRR）
日本との時差：－2時間

カンボジアの概況

2008年までの10年間、平均9％以上の経済成長率を続けていたカンボジアも、世界金融危機のあおりを受けて多くの会社が撤退、工場が閉鎖になり、経済成長も足踏みとなりました。しかしながらそれも束の間、さらに多くの投資が開始されています。一方、隣国タイとの軍事的緊張から軍事予算が膨らみました。教育・衛生関係はかろうじて免れたものの、他の国家予算は軒並み削られ、軍事予算を増強しなければならない状況にあります。

図書館教材作成研修会

完成した校舎

✣ 図書館事業

2007年からシェムリアップ州で3年間実施してきた「小学校での図書館活動普及のための人材育成事業」が2010年3月で終了しました。図書館活動を普及させていく教育省職員、州教育局、郡教育局職員、学校の校長、教員、図書館員とともに行ってきた本事業では、2009年に、計5種類の研修会を1市4州で16回開催し、延べ692人が参加しました。また、学校から教育省レベルまでともに作成した図書館活動マニュアルも完成し、全州へ配布しました。このマニュアルは今後、教育省が図書館活動を普及していく際に活用される予定です。例年開催している「全国おはなし大会」には、1市10州から108人が参加し、各州の活動展示も行われました。その他、移動図書館活動を144の小学校で実施し3万2,509人が参加しました。また、絵本5タイトル1万5,000冊、紙芝居4タイトル1,400部を出版し、「絵本を届ける運動」の絵本とあわせて小学校を中心に配布しました。2棟のモデル図書館も完成し、多くの小学生、教員養成学校生徒が通っています。2010年はバンテイミンチェイ州で2年間の「クラスタースクール（学校群）制度の衛星小学校における図書館活動普及事業」が開始されます。

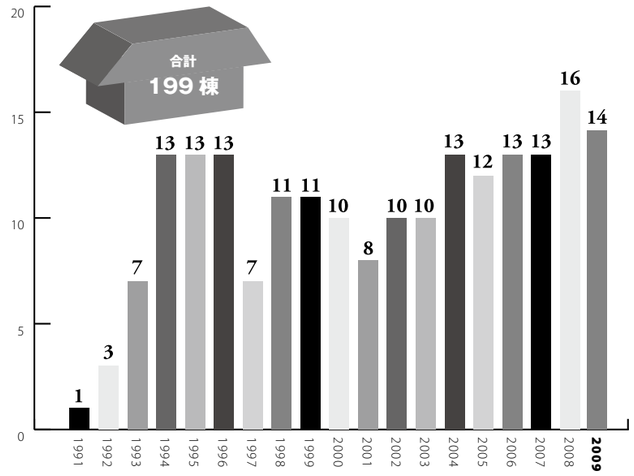
✣ ドリームスクール事業

金融危機に苦しめられながらも、東京事務所の担当者と一丸となって改善をしてきた成果が表れ、計画していた12棟の小学校校舎がすべて遅れることなく完成しました。さらに、シェムリアップ州教育局長からの強い要請により、老朽化した危険な校舎の代替えとして追加支援となった2棟の建設も、年度内に終えることができました。こうして完成した14棟の校舎では、3,340人（2009年10月時点）の子どもが安心して校舎で学び、衛生的なトイレを使うことができるようになりました。

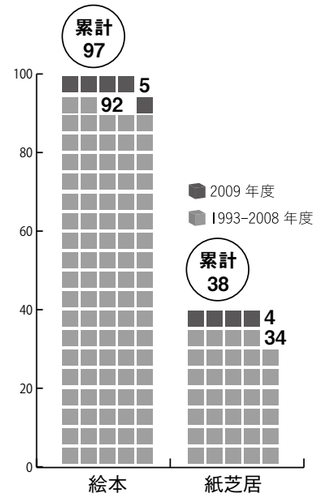
他のＮＧＯやご支援者との協力により浄水器の設置やヒ素検査なども始まり、多くの子どもが校内で安全な飲み水が得られるようになりました。

2010年度は引き続きシェムリアップ州及びコンポントム州の教育局と協力しながら、より多くの子どもが学校に通うことができるように、さらなる問題解決の道を探っていきたいと考えています。

◎小学校建設数（1991-2009年度）



◎出版した絵本・紙芝居



✣ スラム事業

2009年は、プノンペン市内・近郊のスラム及び再定住地11ヵ所にて移動図書館活動を239回実施しました。毎日異なる場所へ足を運び実施しており、計2万1,856人（子ども2万714人、大人1,142人）が参加しました。移動図書館活動は、スラムで活動する3つのＮＧＯおよび活動地の中にある2校の公立小学校と連携して行いました。今後もこのＮＧＯと小学校が独自に活動を継続できるよう、移動図書館活動の研修会を40人に対して実施し、終了時には図書箱と絵本を寄贈しました。また、これまで使用してきた車両の老朽化に伴い、今年度は新車両を購入した結果、教材の運搬や活動地への移動が以前よりもスムーズに行えるようになりました。2010年には移動図書館活動を継続しつつも、図書館事業課と事業統合し、より専門性の高い事業運営・管理を目指します。

新校舎での授業風景

幼い兄弟を抱えて（スラムでの移動図書館活動）

✣ 文化事業

カンボジアの地域社会の中心となる仏教寺院を通じ、伝統文化保護活動と自然保護活動を実施しました。伝統文化保護活動では、「クメール伝統舞踊と伝統的な遊びの保存に関する研修会」「仏教の教えに基づいた倫理教育に関する研修会」をそれぞれ1回実施し、計357人が参加しました。活動地を訪問するスタディツアーには10人の僧侶、村長が参加し、文化・環境保護への意識がさらに高まりました。寺院のマネジメント強化のために行われた研修会には29人の高僧や関係者が参加し、参加者同士の活発な議論が行われました。自然保護活動では、「自然環境と多様な生態系の保護についての研修会」を実施し、計120人が参加したほか、5ヵ所の苗木センターで22種類、計4万5,415本の苗木の育成、3万5,642本の苗木の植樹、配布、植替を、僧侶および地域住民とともに行いました。2010年も、伝統文化・自然保護を柱に活動を継続していきます。

僧侶も参加しての植樹

ラオス Laos

ここ数年、「モデルとなる施設や活動を作り」、「ネットワークを通じ」、「より困難な地域に普及拡大」していく、という事業展開を進めてきました。これまで、①公共図書館サービス、②子どもの家の運営サポート、③教員研修とリソース共有の場の設置、学校建設と連動した初等教育改善アプローチの「モデル化」を図ってきました。そして、ネットワーク化、普及拡大については、96 年に支援を開始した子どもの家をモデルとした子ども文化センターが、情報文化省により全国 35 ヵ所に展開されるまでになりました。次年度は、「学校建設と村ぐるみの教育改善事業」と「図書箱配布活動」に関する評価を実施し、今後活動の展開方法を検討していきます。

国データ

公用語：ラオス語
首都：ヴィエンチャン
面積：240,000km²
人口：638 万人
（2009 年、IMF）
GDP：一人当たり 841USドル
（2007 年、IMF）
通貨：キップ（KIP）
日本との時差：－ 2 時間

ラオスの概況

2009年12月に行われたSEAゲーム(東南アジアスポーツ大会)の成功により、ヴィエンチャン首都を中心に外国の投資や都市開発が加速しています。中国や韓国、ベトナムの大企業が長期土地利用権を得て、鉱物採掘や大規模プランテーション、リゾート開発等に投資していますが、将来的にラオス国民のためになるのか、単に大国に搾取されるだけではないのか、という懸念が大きくなってきています。

村人による学校建設のための木材調達
（ボリカムサイ県）

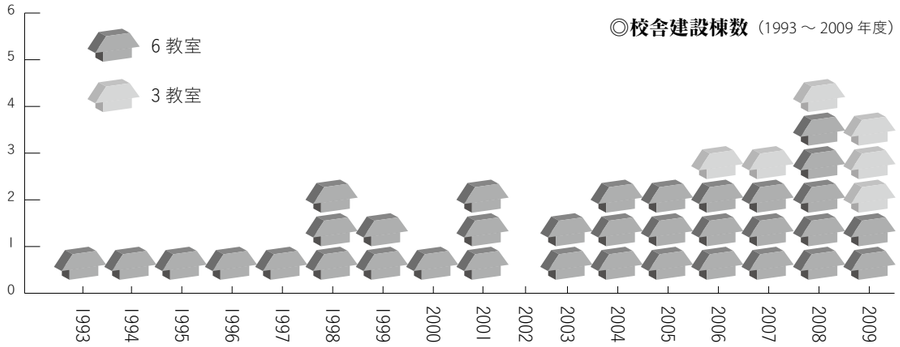
完成した新しい教室で授業を受ける子どもたち
（サラワン県）

✣ 学校建設と村ぐるみの教育改善事業

2009 年度は初等教育の改善のため、南部サラワン県および中部ボリカムサイ県において、施設整備、人材育成の両側面からの支援活動を実施しました。ハード面支援として小学校 5 棟(6 教室 2 棟、3 教室 3 棟)の建設支援活動を行い、約 440 人の子どもたちが新校舎で学ぶことができるようになりました。1993 年の事業開始以来の建設数は合計 41 棟となりました。またソフト面支援として、校長への学校グループ管理研修、教員への教授法・図書研修、保護者・児童会への学校運営参加研修、そしてこれらの運営進捗確認研修、計 4 種類の研修会を行いました。小学校教員、保護者など計 420 人が出席しました。

2009 年は、建設資材や人件費、輸送費の高騰により学校建設価格が上昇したり、以前に比べ、森林保護の動きから木材調達の許可申請手続きに時間がかかるなど課題がありましたが、行政と調整し、住民と協力して、活動を進めることができました。なお教育省は、2009 年度（2009 年 9 月開始）から、小学校教科書の刷新、進級試験の廃止と中学校を 3 年制から 4 年制に延長する政策変更を行いました。

2010 年度は、引き続き同 2 県において、小学校校舎建設を行うとともに、政府の教育政策変更や現場の状況に応じた教員対象の研修会を予定しています。



◎移動図書館活動実績（2009 年度）

郡名	学校名	訪問回数	利用者	貸出図書数
サイセター	ソムサガー	16	1,000	335
	カムサワート	16	2,856	101
サイタニー	ノンヴィエンカーム	17	1,856	276
シコータボン	タットーン	17	2,719	1,697
	ホーム・オブ・ライト	31	606	0
ナーサイトーン	フアクア	17	2,156	282
ヒンフープ	フアヒリティット	1	300	0
		115	11,493	2,691

◎図書箱配布数（2009 年度）

郡名	配布箱数	研修会参加人数	受益者	
			児童	教員
カーム	68	46	7,258	192
パーサイ	13	13	1,503	70
ノンヘート	19	12	3,660	78
プークート	6	1	1,079	46
合計数	106	72	13,500	386

✣ 図書館と青少年事業

2009 年度はラオスの読書推進活動を全国にさらに拡大発展させるために、ラオス北部サイヤブリ県で公共図書館建設と図書館員の育成研修会を行いました。また中部シェンクワン県では同県で 3 年目となる図書箱配布と図書箱の活用方法を習得する研修会を実施しました。2009 年の図書箱配布活動による受益者は児童 1 万 3,500 人、教員 386 人になりました。ラオス北部での公共図書館建設と図書箱配布の 2 つの活動によって、多くの子どもたち、教員へ対して読書の機会を提供することができました。

ヴィエンチャン首都で継続して行なっている移動図書館活動は、新たな小学校へと活動地を移して、4 つの郡 6 つの小学校と 1 つの視覚障がい者施設において、読書の機会を得ることが難しい 1 万 1,493 人の児童生徒を対象にサービスを行いました。

絵本出版活動では、3 タイトル(各タイトル 3,000 冊）の創作・民話絵本を出版しました。これらの絵本は、国立図書館、子どもの家、7 県の公共図書館とそれぞれの県内のコミュニティ図書館などに配布します。

文化と教育のための「子どもの家」では、ラオスの貴重な文化を子どもたちに継承するため、伝統舞踊、伝統楽器、織物等 13 のクラスを多くの子どもたちが利用し、学校教育だけでは見出せない子どもたちの能力を発揮する場を提供しました。

学校クラスター運営研修会（サラワン県）

完成したサイヤブリ県公共図書館

移動図書館活動

ミャンマー（ビルマ）難民 Myanmar (Burma) Refugees

第3フェーズが終了、2010年度からは新たに第4フェーズ（3年間）が開始します。活動の一端を担う図書館委員会、文化委員会、図書館青少年ボランティアなどの仕組みが出来上がり、キャンプ住民による主体的な運営の度合いも高まっています。その一方で第三国定住政策や新難民流入により人材の入れ替りが激しく、キャンプ内の社会サービスの運営も難しい状況です。第4フェーズでは、難民キャンプをコミュニティととらえ、これまで以上に住民組織によって運営されるコミュニティ図書館づくりを目指します。そのため、既存の住民組織に対する能力強化、権限移譲を進め、対内的にはそのプロセスをサポートできる現地職員の育成、活動運営マニュアルの整備等を行っていきます。

主にカレン族が居住するキャンプ

メラウ難民キャンプ	15,837 人
メラマルアン難民キャンプ	17,266 人
メラ難民キャンプ	39,189 人
ウンピアム難民キャンプ	17,659 人
ヌポ難民キャンプ	15,577 人
バンドンヤン難民キャンプ	4,394 人
タムヒン難民キャンプ	8,143 人
合計	**118,065 人**

2009年2月との比較＋7,765人

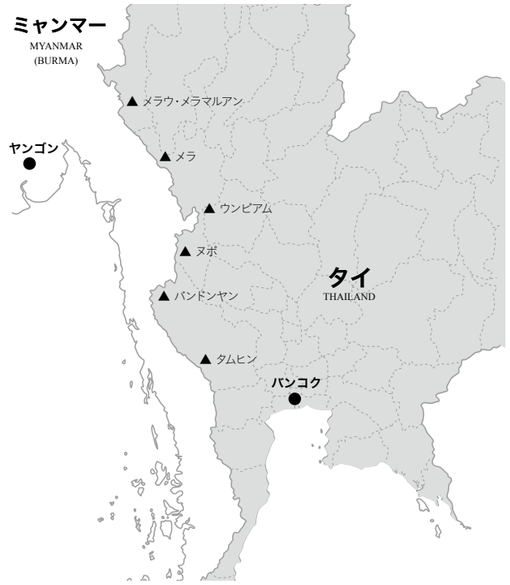
（2010年2月 TBBC 調べ）

難民キャンプの概況

1984年から続く難民問題は、いまだに根本解決の兆しはありません。ミャンマー（ビルマ）政府は、2010年に予定している総選挙対策として、カレン軍への攻撃を再開、その結果2009年6月に3,000人の避難民がタイへ流入しました。恒常的な「新難民」も存在し、キャンプ内にはいまだに13万人（2008年度は14万人、TBBC統計）が滞留しています。唯一の解決法、第三国定住政策で、2009年度は1万6,690人（IOM統計）が第三国へ向けて出発、日本定住の第一陣は2010年9月の予定です。

カレン族の衣装を身にまとい踊る難民の女の子たち（タムヒン）

図書館でカレンダンスを披露（メラマルアン）



❖ 図書館事業

◎ 既存の図書館建物の拡張・改築

地滑りの危険性を回避し、また立地条件の悪い図書館の機能を統合して、図書館数を24館から22館としました。

とりわけ、メラマルアンキャンプの「新くま図書館」は総面積が通常の1.5倍で、大人と子どものスペースの仕切りを外すと広い多目的スペースになります。また、タムヒンキャンプではUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の特別予算で2館の床をセメントに替え、足元の安全を確保することができました。

◎ 児童書、成人用図書の配布

「絵本を届ける運動」により、カレン語の翻訳シールを貼った絵本が2009年3月上旬に到着、すべての図書館に配布することができました。冊数は2008年度タイトルも含めて合計2,537冊。現地では、カレン語と同タイトルの絵本を日本から輸入し、ビルマ語版翻訳文を添付して各地へ配布しました。

成人用図書に関しては、本代は一昨年に比べ15%程度高騰していますが一図書館当たり毎月平均30冊の図書を購入し、配布しました。

◎ 文化学習活動

図書館での文化学習活動が定期的に実施されました。図書館員の交代にともない、活動が多少停滞する図書館もありましたが、週末は青少年ボランティアのサポートも得て、おはなし会などを開催しました。行事としては、昨年同様、こどもの日、絵本コンテスト、母の日、カレン族のお祭り、父の日を実施しました。

◎ 図書館員・図書館委員会への研修

既存の図書館員への研修は各キャンプで1回、新人に対する事前の基礎研修は随時実施しました。11月には第6回図書館員合同研修会をメラマルアンキャンプで開催。残念ながらタムヒンキャンプの図書館員が参加できなかったものの、各地の図書館員・キャンプ付事業コーディネーター総勢45人が参加。新しい運営技術を学び、図書館員同士お互いに経験交流しながらの3泊4日となりました。

◎図書館利用者総数：61万836人（2008年度比較23%減）

◎図書館利用者数（2009年1～12月）

年齢層	男性	割合	女性	割合	合計	割合
0-4歳	54,739	18%	51,560	17%	106,299	17%
5-17歳	157,336	50%	149,197	50%	306,533	50%
18-59歳	97,714	31%	94,260	32%	191,974	32%
60以上	3,064	1%	2,966	1%	6,030	1%
合計	312,853	100%	297,983	100%	610,836	100%

●対象キャンプ
タークー県……メラ、ウンピアム、ヌポ／メーホンソン県……メラマルアン、メラウ
カンチャナブリ県……バンドンヤン／ラチャブリ県……タムヒン

◎ コミュニティを対象とした活動

各キャンプ20人、計140人の図書館青少年ボランティアが活躍しています。週末には図書館を中心に人形劇、絵本読み聞かせ、紙芝居、ゲームなどを実施しており、子どもたちにとって恒例のイベントとなっています。また、人形劇やおはなしに関する研修会を2回開催しました。2010年度は、これまで以上に自主的活動が行われるようにサポートしていきます。

◎ 伝統文化活動

第三国定住による講師の不足、伝統文化に親しむ生徒の減少などもあり、タークー県内の3キャンプではキャンプ内の祭事や子どもたちの休暇時に合わせた集中講座形式を採用しました。2010年度からはこの形式をすべてのキャンプに応用していきます。

伝統文化教室	教室のあるキャンプ数
タナキクロ（竪琴）	6
カナ（マンドリン）	4
ソートゥ（バイオリン）	3
マンドリン（大きいマンドリン）	1
カレン舞踊	7
ポー・カレン語	1

2009年3月31日から4月3日の3泊4日、ウンピアムキャンプにおいて「難民子ども文化祭」を実施しました。キャンプ内の8民族の子どもたち約80人が、ゲーム、レクリエーション、ピクニック、グループ工作などを通して交流しました。ステージプログラムでは各民族の踊り、楽器、歌が披露され、1,000人近くのキャンプ住民で賑わいました。このイベントはＳＶＡが1990年代から実施してきた「アジア子ども文化祭」の流れを汲む活動で、カレン難民委員会をはじめキャンプ住民組織は非常に協力的でした。

◎ 絵本・教材出版

2008年度の絵本コンクールで入賞した3作品（創作）と同年に選んだストーリーについて作絵本コンテストで「絵」募集した2作品（民話）を出版しました。2010年度は出版委員会と協力して民話集を含む5タイトルの出版に取り組みます。

タイトル	カレン語	ビルマ語
4匹の友だち（創作）	1,000冊	1,000冊
白い鳩（創作）	1,000冊	1,000冊
平和を好む鳥（創作）	1,000冊	1,000冊
孤児とおばあさん（民話）	1,000冊	1,000冊
二人の王子（民話）	1,000冊	1,000冊

◎ 絵本を通じた親子ふれあい活動

図書館を知らない、あるいは利用したことのない母親に働きかけるため、幼児を持つ親たちを対象に全キャンプで研修会を実施しました。各図書館では、研修後、利用者登録をした親たちが絵本を借りられるよう配慮していますが、研修直後は、利用者登録数、利用者数は上がるものの、次第に疎遠になる人が多いのも事実です。年に一度の研修以外に、保育所、小学校との連携をさらに工夫する必要性を感じています。

◎ タイ・カレン保育所・小学校での移動図書館活動

シーカー・アジア財団はタークー県ターソンヤン郡の保育所33ヵ所および小学校7ヵ所を対象に研修会を実施。図書箱に図書が補充されました。

今後も、難民キャンプ外のカレン人、ビルマ人などの読書推進活動はシーカー・アジア財団を中心に実施し、ＳＶＡは側面援助をする形をとっていきます。

図書館青年ボランティア研修の風景

「絵本を届ける運動」の絵本到着

第三国定住の掲示板

アフガニスタン Afghanistan

2009年度はナンガハール州の州都であるジャララバード市の全小学校22校を中心に図書活動を展開し、8タイトルの紙芝居、絵本を出版しました。郡部において3校の学校建設を実施しました。子ども図書館を通じて、経済的な理由により学校に行けない50人の子どもへの教育の機会を提供しました。

2010年度はジャララバード市内の小学校を対象にした図書館事業の最終年のため、活動の定着に力を入れます。また事業評価を行い、2011年度からの事業の形成調査を行います。また小学校を4校建設する予定です。

国データ

公用語：パシュトゥン語、ダリ語
首都：カブール
面積：652,225km²
人口：3,100万人
（2008年、国連）
GDP：1人当たり470USドル
（2006年、国連）
通貨：アフガニ（AFA）
日本との時差：－4時間30分

アフガニスタンの概況

2009年8月に実施された大統領選挙のために、反政府武装勢力と政府軍・国際治安部隊・米軍との間の紛争は2009年にさらにエスカレートし、治安は悪化しました。紛争の巻き添えとなった民間人の犠牲者は、2,400人を数え、2002年以降最悪な状況を迎えました。ナンガハール州355校のうち校舎のない学校は132校。建設のニーズはいまだ高いですが、郡部の多くは治安が悪い状況にあります。

✣ 図書館事業

◎小学校における図書活動の普及

2007年から始まり、3年目を迎えたジャララバード市内22の小学校を対象とする図書活動普及事業は、大きな成果を上げました。事業開始前に図書室を利用する子どもは28%でしたが、96%にまで改善しました。平均して児童は週に2回図書室を利用しています。この成果の要因は、教員の9割にあたる約1000人の教員を対象に、図書活動研修会を3回実施し、各校から4人の図書室担当教員、校長らを対象に図書室運営研修会を実施したことです。

2010年度は、市内の22校を対象に図書室運営研修会を2回実施するほか、郡部においてSVAが建設を支援した9校の学校を対象に、教員向けの図書活動研修会を実施する予定です。

移動図書箱活動は、市内の22校と郡部のSVA建設校6校を対象にのべ153回実施しました。この活動では、研修後、きちんと活動が実施されているかどうかをモニターし、助言指導を行うことを兼ねています。2010年度も引き続き、移動図書箱活動を実施します。

◎絵本・紙芝居の出版

2009年度は、6タイトルの絵本をパシュトゥン語、ダリ語600冊ずつ、2タイトルの紙芝居をパシュトゥン語、ダリ語100セットずつ出版しました。出版においては、7人の出版委員会のメンバーが、物語の選択、構成などに関わりました。これらの絵本と紙芝居は、ナンガハール州の31校、約7万人の児童と子ども図書館にて活用されます。2010年度は、6タイトルの絵本と2タイトルの紙芝居を出版する予定です。

子ども図書館に通う子どもたち

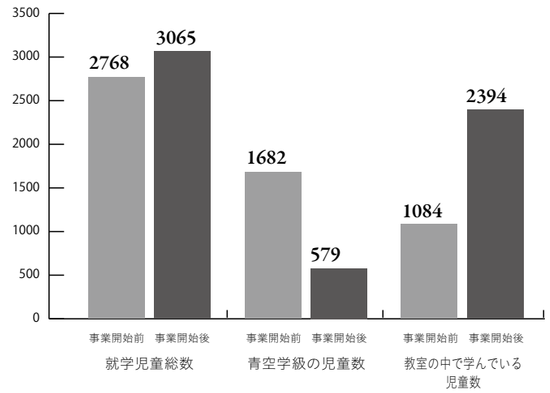
子ども図書館の国際女性の日の行事

◎建設した学校（2009年度）

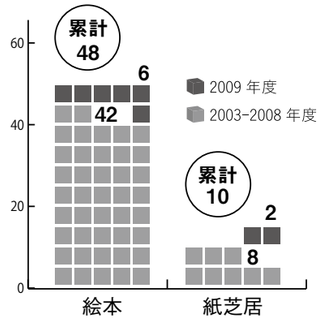
学校名	所在地	児童数	教員数	教室数
ファクルーラ高等学校小学部	ソクロッド郡	1522	56	8
アハマディコット高等学校小学部	クズクナール郡	849	18	8
カイラアバッド小学校	ソクロッド郡	694	13	6

● 2009年度までの累計
建設校数：22棟　建設教室数：233教室　裨益児童数：18,642名

◎学校建設による就学児童の変化（2009年度建設の3校の合計）



◎出版した絵本・紙芝居



◎設置した学校図書室数

● 2009年度　3
● 2009年度までの累計　40
ジャララバード市内の22校と
SVAが建設した学校のうち18校に設置

◎子ども図書館

2009年度は、3歳から15歳まで延べ2万8,935人の子どもたちが子ども図書館を利用し、このうち半数は女子が占めました。学校に行けない子どものための特別教室を実施し、50人の子どもたちが学びました。読み聞かせ、工作、タラナ（詩の朗読）といった図書活動、縫製教室、月例行事も昨年同様実施されました。借りていた民家が契約切れになったため、11月に別の民家に移転しました。2010年度は、特別教室を修了した子どもが、小学校に編入できるためのサポートを行います。

「絵本を届ける運動」の絵本を読む子ども
（『11ぴきのねことへんなねこ』こぐま社）

✣ 学校建設事業

2009年度は、8教室の校舎を2棟、6教室の校舎を1棟、計3棟を郡部で建設し、各校に図書館、職員室も整備しました。学校建設終了後には、教員および住民向けの学校校舎維持・管理研修会を行いました。各学校には、図書室の設置、図書の配布、机、椅子等の備品及び生徒向けの文具の提供を行いました。建設によって、3校あわせて1,103人の子どもが青空学級から解放され、安全で快適な校舎で学ぶことができるようになるとともに、就学児童は297人増加しました。

2010年度は、8教室の校舎を2棟、6教室の校舎を1棟、4教室の校舎を1棟、計4棟の学校建設事業を郡部で行う予定です。

校舎建設前のカイアラバッド小学校

✣ 職員研修および国際交流

日本人職員の常駐ができない中で、現地職員の能力強化や交流が重要となっています。2009年5月に経理総務担当職員1人を東京事務所に招へいし、経理の研修を実施しました。また5月にUNHCRによる安全確保研修を、アフガニスタン事務所長および総務担当職員1人が受講しました。アフガニスタン事務所副所長を10月に日本に招へいし、全国7ヵ所で報告会を行い920人が参加したほか、支援者と交流しました。

建設された校舎（カイラアバッド小学校）

緊急救援 Emergency Relief

2009年から2010年前半にかけて、インドネシア、ハイチ、チリなど世界各地で地震による大災害が発生しました。SVAでは、2008年から継続していたミャンマー（ビルマ）被災地での活動を2009年7月に終了。その後、9月30日にインドネシアのスマトラ島沖で発生した地震の被災地にて支援活動を半年間行いました。

一方、日本でも夏から秋にかけて台風や集中豪雨の影響で水害が各地で発生しました。2009年8月、兵庫県佐用町の水害（台風9号）では、現地の「災害ボランティアセンター」の運営を応援する職員を派遣しました。平常時には学校や社会福祉協議会などで防災、減災に関する講演や研修会を実施しました。

「日本のみなさま、ありがとうございました！」完成した子どものための図書館に子どもたちの元気な声が響く（スマトラ島）

崩壊した自宅跡で途方に暮れる人（スマトラ島）

支援物質を手渡すSVA職員（スマトラ島）

✣ スマトラ島沖地震 被災者支援事業

災害発生1週間後から、インドネシア西スマトラ州で活動を始めました。崩壊した建物や土砂崩れで生き埋めとなり、死者は1,117人を数えました。

当初の1ヵ月は支援物資の提供を行いました。医薬品を6ヵ村の1,890世帯へ、食料品（米、豆、油、缶詰等）を12ヵ村の2,547世帯へ、そして壊れた家屋の解体や修理、仮設住居を建てるための工具セット（ハンマー、スコップ、つるはし、一輪車、釘抜き、ワイヤー等）は3ヵ村の921世帯へ提供しました。

10月下旬、被災者のテント暮らしの長期化が課題となるなかで、合計189世帯に仮設住居を提供しました。

2010年1月からは、「村の復興は、子どもたちの笑顔から」を目標に、被災地の子どもや若者を応援する活動を行いました。村で初めての子どものための図書館を4ヵ村で建設しました。本は小学生用の絵本や図鑑、中高校生のための小説など、合計で1,050冊提供しました。そのほか幼稚園の再建と保育園の補修（各1ヵ所）、職業訓練所の開設支援（2ヵ所）を行いました。これらの施設は住民組織や地元のNPOにより運営される事になり、SVAの活動は同年4月末で終了しました。

◎これまでの主な支援活動

1995年　阪神淡路大震災
1997年　北朝鮮食糧危機
1999年　トルコ大地震、台湾大地震
2001年　インド西部大地震、アフガニスタン難民支援
2003年　イラン南西部大地震
2004年　兵庫県豊岡市台風23号水害、新潟中越地震、スマトラ島沖地震の津波
2005年　三宅島島民帰島支援、パキスタン北東部地震
2006年　ジャワ島中部地震
2007年　能登半島地震、新潟中越沖地震、バングラデシュ・サイクロン（台風）
2008年　ミャンマー（ビルマ）サイクロン
2009年　スマトラ島沖地震

✣ ミャンマー（ビルマ）サイクロン被災地支援事業

2008年5月、巨大サイクロン（台風）が発生し、暴風雨と津波のような高潮がミャンマー（ビルマ）南部の村々を襲いました。海水にのまれて逃げ遅れた子どもやお年寄りなど、大勢が溺れて、死者、行方不明者13万人を超す大災害となりました。SVAではその直後に救援物資の提供を開始し、現地の協力団体を通じて翌2009年7月まで15ヵ月に渡り支援活動を行いました。当初2ヵ月間は、飲み水や米、野菜などの食料、医薬品、住居修理用の資機材を約18万2,000人へ提供しました。

2009年からは復興支援を開始。サイクロン遺児が安心して暮らせるよう、2棟の孤児院を建設したほか、保育所34棟の再建を行いました。高潮の海水による塩害をうけた4つの村では、使えなくなった井戸の代わりに雨水を貯める「貯水槽」を建てました。

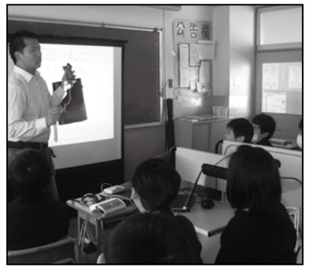
一方、日本では多くの方々に呼びかけ「被災地に絵本を届ける運動」を実施。被災地の子どもたちへ合計468冊の絵本を届けました。この絵本が活かされるよう、保育所の教員を対象に「おはなし先生」の研修を実施しました。

再建した保育所に元気な声が戻る（ミャンマー（ビルマ）サイクロン）

避難所となったお寺での移動図書館活動（ミャンマー（ビルマ）難民「子ども図書館活動」）

✣ ミャンマー（ビルマ）難民「子ども図書館活動」

2009年6月上旬、ミャンマー（ビルマ）辺境で暮らす少数民族に対する同国軍の攻撃が激化。多くの避難民が国境を越えてタイ側へ逃れました。タイ・ターク県ターソンヤン郡では寺院や孤児院、民家など7ヵ所に避難所ができましたが、避難民約3,200人のうち半数は12歳以下の子どもでした。SVAでは難民キャンプで支援活動を行っていますが、この「新たな避難民」に対しても現地で活動する他の団体と連携し3ヵ月間支援しました。SVAメーソット事務所職員で臨時チームを作り、3ヵ所の避難所を巡回。心身共にストレスの多い避難生活を余儀なくされている子どもたち約300人を対象に、「図書キャラバン」を合計6回行いました。


「その時、どうする？」小学校の授業で問う（日本）

✣ 防災研修会

日本国内では、地域の防災力、減災力を高めるために防災講座や研修会への講師派遣を行いました。2009年は大学や高校、小中学校、社会福祉協議会など合計10ヵ所で「『いざ』という時に何が出来ますか？」などをテーマに講座を行いました。こうした活動を通じて、日頃からの災害に対する意識や地域での人間関係が大切であることを参加者へ伝えています。

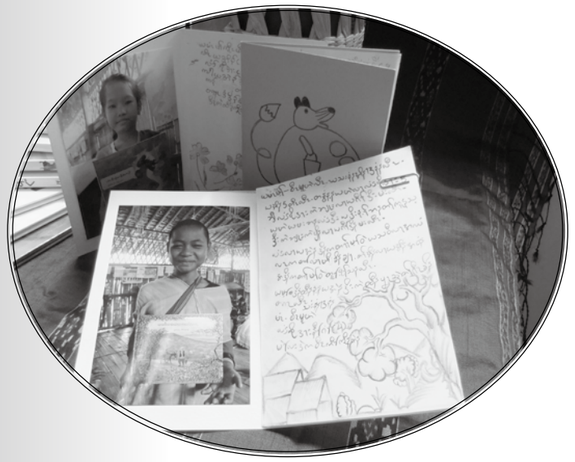
✣ ネットワーク活動

2009年9月、首都圏の大地震に備えた「帰宅困難者対応訓練」の運営に協力しました。また毎年2月には静岡県での「災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」に参加し、大災害時の広域連携のあり方を模索しています。そのほか「東京災害ボランティアネットワーク」や「震災がつなぐ全国ネットワーク」に加盟、「顔の見える関係」を大切に、災害に備えた連携強化を図っています。

「歩いてみよう！」災害を想定した帰宅訓練（日本）

日本 Japan

2009年度は理事・監事の勉強会や会員の代表である代議員の集いを行い、地方で会員の皆さまが参加できるイベント開催の可能性について語り合いました。2010年度には具体化していきます。またラオスの難民キャンプからスタートしたクラフト・エイドが25年目を迎えるため、ラオスとタイ北部を訪れるスタディツアーを行います。日本にいながら参加できる活動をご紹介しながら、現地を見る機会をこれからも作っていきます。



手書きの手紙から息づかいが伝わります

チャイルド・ブック・サポーター

活動意義を伝えるため、情報発信に努める

2009年末現在、650人、834口のご登録をいただきました。4月には活動地の子どもたちからの感謝状をお届けし、子どもたちがつづった喜びの声と生活の様子に、多くのサポーターの方から反響を頂きました。秋からは、機関誌「シャンティ」の送付を開始し、メールニュースとあわせ、国内外の活動の様子をより具体的にお伝えしています。

2010年も活動の意義と成果を実感し、アジアの子どもたち、そしてＳＶＡをより身近に感じていただけるよう、努めてまいります。

翻訳シール貼りに夢中になる子ども

絵本を届ける運動

15万冊の絵本が子どもたちへ

2009年度も2万3,409冊の絵本を作成。運動開始からの送付数総計は15万冊をこえました。個人のほか、のべ98の学校、118の企業が参加し、ベルマーク教育助成財団からの助成や船会社による輸送支援も継続していただきました。2010年度は、ラオスへ送る絵本のタイトルを一新し、パンフレットを更新。2万冊を目標に「絵本のタネ」を届けます。

広報

活動内容を分かりやすく発信

ウェブサイトやブログ、メールニュースを通し、ホットな情報発信に努めました。（社）落語芸術協会との共催で寺院を中心に開催した「チャリティ寄席」は1年で52回。毎年伸び続けており、2010年度もさらなる回数増加が見込まれます。それぞれの国の小学校を特集した機関誌「シャンティ春号」は、「活動が分かりやすく書かれている」とご好評いただきました。今後も個人、企業、宗教法人問わず、一人でも皆さまに活動内容をご理解いただけるような広報に力を注ぎます。

機関誌「シャンティ」

「刺繍でつづるモン族の物語」展

クラフト・エイド

ラオス難民キャンプから25周年

2009年は2月にモン族の刺繍展、4月には新カタログ御披露目会のイベントを開催し、その結果メディアの取材・掲載が15件ありました。新規登録フェアトレード店舗は9軒増えました。クラフト・エイド事業開始から25周年を迎える2010年は、夏に生産者を訪ねるスタディツアーの他、日本全国で委託ミニフェアを開催するなど、様々な企画を充実させ広報・営業に力をいれていきます。

不要な本を集め、企業で参加

リサイクル・ブック・エイド

誰でも気軽に参加

2009年はキャンペーンを3回行い、新聞、雑誌、ラジオ等様々な媒体で紹介されました。個人･企業を問わず多くの方にご協力いただき、ご寄付額は前年比108％となりました。身近なことからできる当事業への参加は、リピーターも多く､また､ほかの活動にも関心を広げるきっかけになっています。2010年度も、はじめの一歩として気軽に参加していただけるよう呼びかけてまいります。

バンコクでの事業調整会議

海外事業支援

海外と国内の更なる連携に努める

2009年度は海外事業の募金活動を目標通りほぼ達成しました。事業評価活動や形成調査を実施、事業計画作成そしてシーカー・アジア財団の自立化計画作成を支援しました。また政策提言、NGOネットワーク活動に参加して情報交換を行いました。2010年度は海外事務所そして国内の活動との連携を一層図り、海外事業の支援体制を強化していきます。

「世界中の子どもに教育を」キャンペーンに
参加した子ども代表が外務政務官に面会

企画調査

「世界の子どもに教育をキャンペーン」

教育協力NGOネットワーク(JNNE)の事務局として日本政府の教育援助政策を改善するために、「世界中の子どもに教育をキャンペーン」を実施し、153校の2万人の小中学生が参加しました。『万人のための教育グローバルモニタリングレポート2009年度版』の日本語版の出版、セミナーをユネスコアジア文化センター、JICAと実施しました。

会計報告 Accounting Report

《一般会計》2009 年度収支計算書

2009 年 1 月 1 日～ 2009 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

（単位：円）

事業活動収入		622,700,349
	基本財産運用収入	124,110
	特定資産運用収入	257,531
	会費収入	30,106,500
	寄付金収入	425,014,528
	事業収入	61,884,483
	補助金等収入	98,692,099
	雑収入	1,907,961
	特別会計繰入金収入	4,713,137
事業活動支出		534,320,092
事業費支出		520,197,171
	タイ事業費支出	36,061,205
	カンボジア事業費支出	166,021,092
	ラオス事業費支出	73,329,889
	ミャンマー（ビルマ）難民支援事業費支出	55,486,960
	アフガニスタン事業費支出	87,776,092
	絵本を届ける運動事業費支出	44,654,769
	チャイルド・ブック・サポーター事業費支出	10,723,313
	クラフト・エイド支出	35,907,736
	リサイクル・ブック・エイド支出	3,304,949
	企画調査支出	6,931,166
管理費支出		14,122,921
事業活動収支差額 (A)		88,380,257

◎投資活動収支の部

投資活動収入		109,535,055
	特定資産取崩収入	109,535,055
投資活動支出		147,146,365
	基金等積立支出	143,641,246
	固定資産支出	3,505,119
投資活動収支差額 (B)		▲ 37,611,310

◎財務活動収支の部

該当なし (C)	0
当期収支差額（A + B + C）	50,768,947
前期繰越収支差額	49,684,162
次期繰越収支差額	100,453,109

※ 2009 年度の平均為替レート　1 ドル＝ 93.69 円　1 バーツ＝ 2.7169 円

※ 2009 年度の役員報酬は、4,966,468 円である

《特別会計（緊急救援事業）》2009年度収支計算書

2009 年 1 月 1 日～ 2009 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

（単位：円）

事業活動収入		25,554,360
寄付金収入	ミャンマー・サイクロン収入	4,653,102
	スマトラ島沖地震収入	9,244,287
	佐用町水害収入	769,280
	その他収入	1,099,126
補助金等収入	民間補助金収入	9,788,565
事業活動支出		39,144,725
事業費支出	ミャンマー・サイクロン支出	11,114,346
	スマトラ島沖地震支出	13,454,500
	佐用町水害支出	710,041
	三宅島・風の家支援支出	500,000
	その他支出	8,652,701
一般会計繰入金支出		4,713,137
事業活動収支差額		▲13,590,365

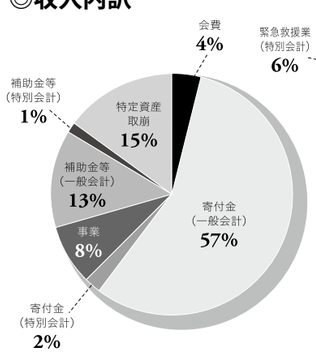
◎投資活動収支の部

該当なし	0

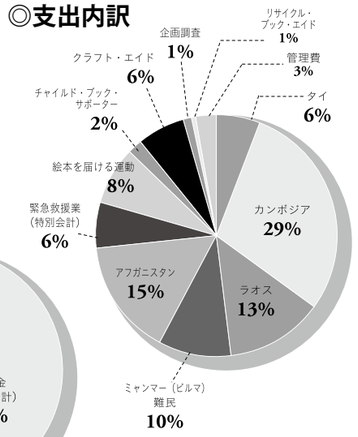
◎財務活動収支の部

該当なし	0
当期収支差額	▲13,590,365
前期繰越収支差額	25,277,128
次期繰越収支差額	11,686,763

◎収入内訳



◎支出内訳



《一般会計》2010 年度収支予算書

2010 年 1 月 1 日～ 2010 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

（単位：円）

事業活動収入		521,547,000
	基本財産運用収入	300,000
	特定資産運用収入	200,000
	会費収入	30,600,000
	寄付金収入	298,806,000
	事業収入	45,005,000
	補助金等収入	146,246,000
	雑収入	390,000
事業活動支出		560,971,000
事業費支出		547,378,000
	タイ事業費支出	42,752,000
	カンボジア事業費支出	165,957,000
	ラオス事業費支出	80,973,000
	ミャンマー（ビルマ）難民支援事業費支出	54,878,000
	アフガニスタン事業費支出	103,609,000
	絵本を届ける運動事業費支出	42,744,000
	チャイルド・ブック・サポーター事業費支出	12,231,000
	クラフト・エイド支出	40,538,000
	企画調査支出	3,696,000
管理費支出		13,593,000
事業活動収支差額　(A)		▲39,424,000

◎投資活動収支の部

投資活動収入		51,971,000
	特定資産取崩収入	51,971,000
投資活動支出		0
投資活動収支差額　(B)		51,971,000

◎財務活動収支の部

該当なし (C)	0
当期収支差額（A + B + C）	12,547,000
前期繰越収支差額（L）	49,684,162
次期繰越収支差額（K + L）	62,231,162

※ 2010 年度収支予算書の為替レート　1 ドル＝ 115 円　1 バーツ＝ 3.5 円

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査及び田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。

《特別会計（緊急救援事業）》2010年度収支予算書

2010 年 1 月 1 日～ 2010 年 12 月 31 日

◎事業活動収支の部

（単位：円）

事業活動収入	260,000
寄付金収入	260,000
事業活動支出	9,763,000
事業費支出	9,763,000
事業活動収支差額	▲9,503,000

◎投資活動収支の部

投資活動収入	0
特定資産取崩収入	0
投資活動支出	0
投資活動収支差額	0

◎財務活動収支の部

該当なし	0
当期収支差額	▲9,503,000
前期繰越収支差額	10,329,483
次期繰越収支差額	826,483

貸借対照表・総括表

2009 年 12 月 31 日現在

◎資産の部

（単位：円）

		一般会計	特別会計	合計
流動資産		173,887,553	11,686,763	185,574,316
固定資産		392,595,484	0	392,595,484
	基本財産	50,000,000	0	50,000,000
	特定資産	324,447,629	0	324,447,629
	その他固定資産	18,147,855	0	18,147,855
資産合計		566,483,037	11,686,763	578,169,800

◎負債の部

	一般会計	特別会計	合計
流動負債	73,434,444	0	73,434,444
固定負債	44,366,595	0	44,366,595
負債合計	117,801,039	0	117,801,039

◎正味財産の部

	一般会計	特別会計	合計
指定正味財産	315,377,531	0	315,377,531
（うち基本財産への充当額）	（50,000,000）	0	
（うち特定資産への充当額）	（265,377,531）	0	
一般正味財産	133,304,467	11,686,763	144,991,230
（うち基本財産への充当額）	0	0	
（うち特定資産への充当額）	▲ 21,870,098	0	
正味財産合計	448,681,998	11,686,763	460,368,761
負債及び正味財産合計	566,483,037	11,686,763	578,169,800

組織ネットワーク Organization&Network

❖ 会員

会員合計	1,910 名
社員会員	329 名
社員個人会員	273 名
社員団体会員	56 名
賛助会員	1,581 名
賛助個人会員	1,335 名
賛助学生会員	44 名
賛助団体会員	168 名
賛助維持個人会員	20 名
賛助維持団体会員	14 名

（2009 年 12 月 31 日現在）

❖ 役員（理事 18 名、監事 2 名）

理事（会長）	若林 恭英	長野県・安楽寺住職
理事（副会長）	神津 佳予子	有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長
理事（副会長）	三部 義道	山形県・松林寺住職
理事（専務理事）	茅野 俊幸	長野県・瑞松寺副住職
理事（常務理事）	倉科 利行	長野県・全久院住職
理事（常務理事）	早坂 文明	宮城県・徳本寺住職
理事（常務理事）	八木澤 克昌	ＳＶＡアジア地域ディレクター
理事	上原 泰男	東京災害ボランティアネットワーク事務局長
理事	亀﨑 弘記	全国電力関連産業労働組合総連合労働政策局長
理事	里見 照子	医療法人英然会理事
理事	角 直彦	特定非営利活動法人シャンティ山口代表理事
理事	関 尚士	ＳＶＡ事務局長
理事	永堀 宏美	人材 (人財) 開発＆教育コンサルタント
理事	野村 修一	弁護士
理事	萩野 頼子	株式会社飯能製作所代表取締役社長
理事	秦 辰也	近畿大学文芸学部英語多文化コミュニケーション学科教授
理事	笛岡 賢司	静岡県・龍谷寺住職
理事	渡辺 恵司	ワタケイ紙器株式会社代表取締役会長
監事	青木 利元	ボランティア活動国際研究会代表
監事	白石 孝	自治労荒川区職員労働組合書記長

（2010 年 4 月 1 日現在）

❖ 名誉会長

松永 然道　静岡県・宗徳院東堂

❖ 顧問

足立 房夫　社団法人協力隊を育てる会会長、社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長
阿部 豊淳　宮城県・光寿院住職
荒巻 裕　近畿大学副学長・文芸学部教授
川原 英照　熊本県・蓮華院誕生寺貫主、特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会会長
籏本 宏昌　東京都・泰宗寺住職
松野 宗純　福井県・地蔵院東堂、全国ＰＨＰ友の会相談役

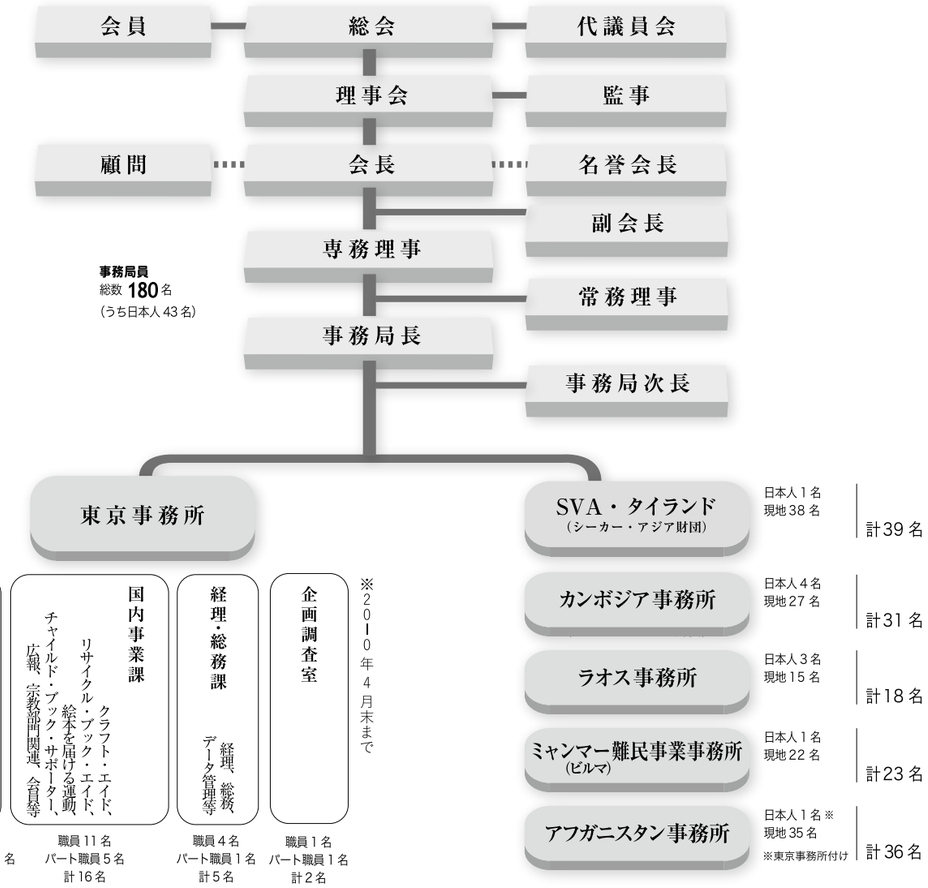
（2010 年 4 月 1 日現在）

❖ 代議員（41 名）

萩野 徹嚴（北海道）
佐野 俊也（北海道）
高山 元延（青森）
谷本 俊昭（岩手）
伊串 泰純（宮城）
岡崎 正利（宮城）
田中 治彦（茨城）
黒田 光泰（栃木）
矢島 道彦（栃木）
後藤 史郎（埼玉）
丸岡 晶（埼玉）
三田村 昌生（埼玉）
宮寺 守正（埼玉）
木村 憲（千葉）
櫻井 大文（千葉）
芦川 正夫（東京）
柏原 信幸（東京）
浅野 幸子（東京）
坂本 観泰（東京）
高久 実己子（東京）
平岩 町子（東京）
岡野 雅代（神奈川）
鹿野 融完（神奈川）
近藤 博道（長野）
宮下 俊哉（長野）
横澤 敬雄（長野）
渡邊 真人（新潟）
嶋田 英淳（静岡）
松永 寛道（静岡）
浅田 有彦（愛知）
透 隆嗣（岐阜）
増田 和生（大阪）
SVA 京都寺院の会（京都）
橋本 純信（奈良）
澤 真吾（島根）
西村 信恵（広島）
有馬 嗣朗（山口）
伊藤 暢道（山口）
松尾 哲雄（長崎）
荒木 正昭（熊本）
甲斐 之彦（大分）

（2010 年 4 月 1 日現在）

組織図



（2010 年 4 月 1 日現在）

❖ 参加ネットワーク一覧

◎国内

動く→動かす【フレンズ会員】／ NGO －労働組合国際協働フォーラム【企画委員】／カンボジア市民フォーラム【団体会員】／ジャパン・プラットフォーム（JPF）【ＮＧＯユニット参加団体】／ビルマ市民フォーラム【団体会員】／開発教育協会（DEAR）【理事】／教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）【運営委員、事務局長】／国際協力 NGO センター（JANIC）【理事】／ CSR 推進 NGO ネットワーク【会員】／震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）【幹事】／中央共同募金会－災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議【検討委員】／東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）【副代表、運営委員】／特定非営利活動法人シーズ･市民活動を支える制度をつくる会【賛助会員】／日本 NPO センター【会員】／日本 UNHCR － NGOs 評議会（J-FUN）【団体会員】／日本アフガニスタン NGO ネットワーク（JANN）【団体会員】／日本図書館協会【会員】／仏教 NGO ネットワーク（BNN）【運営委員、副代表】

◎海外

Agency Coordinating Body For Afghan Relief (ACBAR)、在アフガニスタン【会員】／ Asian South Pacific Bureau of Adult Education (ASPBAE)【理事】／ Books for Children Foundation、在タイ【会員】／ Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand (CCSDPT)（難民支援事業調整委員会）、在タイ【会員】／ Cooperation Committee for Cambodia (CCC)、在カンボジア【会員】／ International NGO Education Meeting、在ラオス【会員】／ International NGO Meeting、在ラオス【会員】／ Japanese NGO Network Meeting (JANM)、在ラオス【会員】／ Japanese NGO Worker' s Network in Cambodia (JNNC)、在カンボジア【世話人】／ NGO Education Partnership (NEP)、在カンボジア【会員】／ Task Force for Children in Thailand (TFCT)、在タイ【会員】／ Technical Working Group in Nangahar、在アフガニスタン【会員】／ The Publishers and Booksellers Association of Thailand、在タイ【会員】／いきいきした学校図書館を考えるネットワーク、在タイ【会員】

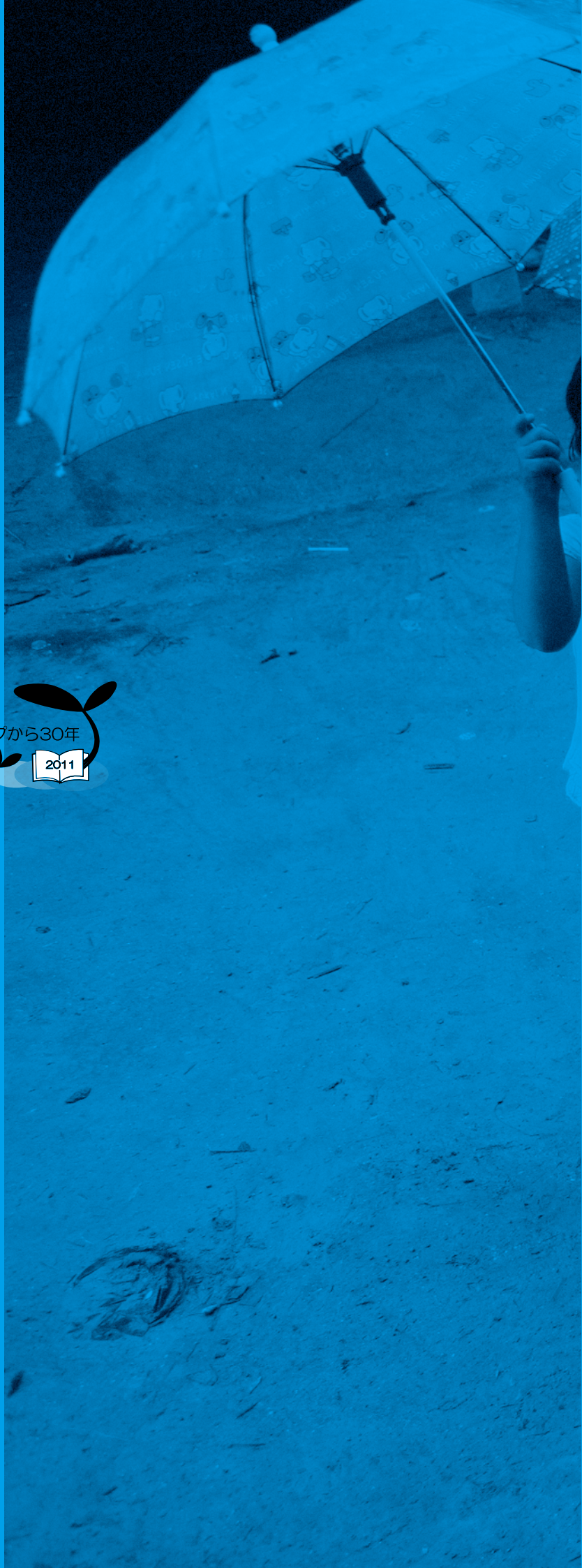
（2010 年 4 月 1 日現在）

❖ 国内における主な受賞歴

正力松太郎賞（84 年）
ソロプチミスト日本財団賞（85 年）
外務大臣賞（88 年）
毎日国際交流賞（94 年）
東京都豊島区感謝状（95 年）
防災担当大臣賞（04 年）
兵庫県知事感謝状（05 年）
第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」（08 年）

（2010 年 4 月 1 日現在）

シャンティ
2010年7月1日発行（1、4、7、10月1日発行）
増刊　通巻251号
1985年6月28日第三種郵便物認可



難民キャンプから30年
1981
2011

寄付金について、税の優遇措置が受けられます

社団法人シャンティ国際ボランティア会は、外務省より「特定公益増進法人」として認定されています。ご寄付いただいた方は、所得税・法人税および相続税の寄付金控除の適用を受けることができます。当会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。